

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	文京区本駒込1-20-21
園名	このえ第二本駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

危険予知

<テーマの設定理由>

・2023年度からの「保育所における安全計画の策定」義務化を受け、本園では安全整備にとどまらず、子どもたちが自ら危険を予測し回避する「主体的な安全対応能力」の育成が急務であると考えました。そこで『保育者の学びと演習・子どもたちの理解と学び・保護者への周知と理解』をねらいとし、特に「子どもたちの深い学びにつながるオリジナル教材(絵本・微細運動教具・音声絵本等)の新規作成」を中核に捉えたテーマを策定いたしました。

・本テーマにおいて、新たに教具を作成することには以下の重要な義務があります。

①発達段階と個性性に即した「主体的な学び」の誘発。実践されている安全計画指導(大人が危険を教え込むこと)だけでは、子どもたちの日常生活における危険予知・回避行動への定着疑問も残っていた。本園の月齢や発達段階、園周辺の社会的環境(散歩ルートの特性等)に特化して作成した「えほん」や「音声えほん」を用いることで、子どもたちが身近な事象として興味を持ち、「危険とは何か」を自分事として捉え、子ども同士で話し合う「深い学び」へと繋げることをねらいとした。

②「遊び」と「安全教育」の融合による体験的理解の促進。安全という概念を座学ではなく日々の活動の中で体得させるため、「微細運動教具」や「歌・ダンスなどの表現活動」を新たに開発いたしました。指先を使う教具遊びや身体を動かす表現活動の中に安全のルールを組み込むことで、子どもたちは楽しみながら自然と危険を未然に防ぐ知識や動きを獲得します。これは、計画された一時的な体験にとどまらず、日常の遊びを通して継続的に安全意識を育み上で、きわめて有効と考えた。

③保育者の専門性向上と保護者との連携強化。新たな教具を企画・作成するプロセス自体が、保育者にとって「子どもの視点に立った安全とは何か」を見つめ直す重要な「学びと演習」の機会とし、インターネット(ICT)を活用して、保護者へ迅速に周知し、保護者への理解と協力へと繋げていくこととした。さらに作成した教具を用いた子どもたちの生き生きとした活動の様子を保護者会や保育で公開し、園での学びを家庭へと接続し、園と家庭が一体となった実効性の高い安全対策を構築できると考え、本テーマを設定いたしました。

2. 活動スケジュール

5月:交通安全集會にて、警察官から話を聞いたり、横断歩道の渡り方の確認
警察博物館にて、安全について学び、ぼうはん新聞作成
防災絵本の読み聞かせ

7月:暑い日の過ごし方について考え、新聞作成、発表

9月:引き取り訓練時に紙芝居を見たり、防災リュックの確認

12月:駒込警察に依頼をし不審者訓練、「いかのおすし」の話をしてもらう

2月:微細運動(絵本「さむいひ」、タペストリー)※タペストリーを用いて、適したものを知らせたり、遊びを通して理解へと繋げることをねらいとし、「危険予知」バージョンの実施へと繋げる活動。

3月:遊び(固定遊具)を通して、危険予測を身に付ける

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材】

絵本「どうぶつポーズであそぼうサイ」「あせ からだをあつさからまもるには」
防災リュック 温度計 固定遊具

【準備物】

紙芝居製作:画用紙、クレヨン
標識塗り絵:塗り絵、クレヨン
新聞製作:模造紙、色画用紙、水性ペン、糊、はさみ、写真

【場所】

保育室 警察博物館 園周辺 公園 テラス

【行事】

交通安全集会 社会見学 引き取り訓練 表現教室 不審者訓練

4. 探究活動の実践

- ①絵本からどんな危険が予測されたときに行う行動か理解できるように知らせた。
- ②3歳児クラスを対象とし、タペストリーを用いて(微細運動遊具)友だち同士でやり取りをするよう場面を体験。話し合う。協力したり助け合う姿も想定。個々の活動だけではなく、グループとしても、根拠を言葉にしたり、粘り強く取り組み、落ち着いた環境で、振り返り、理解学びを深めていけるようにした。
- ③交通安全集会にて、警察官から話を聞いたり、横断歩道の渡り方の確認する。
- ④塗り絵で標識への関心を高め、実際に標識探し散歩をして意識をして歩けるようにした。
- ⑤警察博物館に行く前に、安全についての意識を高める為に、園内の危険個所を探す活動を行う。その後、新聞作りを行い、園内に掲示し、保護者にも安全や防犯の大切さを知らせる。
- ⑥絵本に出てくる動物の真似をすることからはじめ、どんな危険が予測されたときにする行動か理解できるように知らせた。
- ⑦自分の体に感心をもち、夏の健康的な過ごし方や暑さ対策について考える活動を行う。体の仕組みや園内と園外の温度の違いを調べた上で、暑さ対策について話し合いをし、年下児に向けて発表を行なった。
- ⑧引き取り訓練で、防災リュックの中を一つずつ確認し、どんな時にどのように使うのか実際に使い方を見せながら学ぶ時間を設けた。
- ⑨駒込警察に依頼し、職員向けに不審者訓練を実施後、子どもたちに「いかのおすし」の話しをしてもらい、デモンストレーションを行った。
- ⑩固定遊具で起こりうる危険を実際に見て考える時間を設けてから遊ぶことで、予測したり、回避しながら遊ぶことができるようにした。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

①交通安全集会



運転手に見えるように
ちゃんと手をあげよう



②標識

お外にもあるかな～？



③警察博物館

脚立も倒れたら危ないよね。
脚立があるところは
気を付けよう。



④絵本「どうぶつポーズであそぼうサイ」



⑤暑い日の過ごし方

暑い日は汗をたくさんかくので
しっかりと水分補給をしましょう。



⑥引き取り訓練



防災リュックってこんなに重いんだね！

不審者訓練



いません！絶対に行かないです！

ポケモンカードをあげるから一緒に行こうよ。



⑧遊び



滑りやすいからちゃんと掴んでゆっくりいこう！



⑨ 微細運動・タペストリー



これはどこかへ〜？



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・本園の安全計画において、子どもたちが主体的に危険を回避する力を育むための重要なアプローチとして「えほん・微細運動(タベストリー)・音声えほん」といったオリジナル教材を製作・導入した。これらの教材を保育室に常設し、日々の遊びの中で活用したことで、子どもたちに以下のような大きな変容と深い学びが見られた。

・特に3歳児クラスで実践したタベストリー(微細運動教具)では、子どもたちが「えほん」の場面と「タベストリー」をじっくりと見比べながら、パーツを春場所を自分で探す姿が見られた。最初はバックルベルトの扱いの難しさを感じていた子も「どうしたら出来るか」と指先を使いながら何度も試行錯誤を繰り返していた。失敗してもやり直せる環境があることで、自ら「できた!」という発見や喜びを味わい、それが次への意欲へとつながっていった。また、活動の初期は保育者に頼り、一人黙々と取り組む姿が多かったが、反復して遊びこむうちに、子ども同士で「ここは危ないよ」「こうやって付けるんだよ」と教え合い、タベストリーを介して協力し合う協動的な動きへと発展していった。

・個別の発達特性に寄り添えるアプローチ(インクルーシブな視点)実践の中で、発達に特性を持つ子がこの教材に非常に集中して取り組む姿が見られた。言葉による一斉指導では伝わりにくい内容でも、自分のペースで触って確かめられる教具や視覚に訴えかける音声えほんがあることは、すべての子どもが無理なく安全について学ぶことが出来る実感した。教材は一度作って終わりではなく、個々や月齢数のねらいに合わせた子どもたちの気づきや成長に合わせてパーツを追加したり、内容をアップデートしたりすることが出来る実践を通し、気づくことができた。

・遊び(固定遊具や室内ゲーム遊び)を通して、固定遊具で起こりうる危険を実際に見て考える時間を設けてから遊ぶことで、予測したり、回避しながら遊ぶことができる姿が見られた。道中での声掛けでは楽しくなりすぎてしまいがちである為、子どもたちからの気づきを引きだし気を付ける意識を持たせてから遊びを行っていくことの大切さを感じることが出来た。

・交通安全集会では、実際に横断歩道を左右を確認してから手を上げて渡るということを行い、実際に子どもが行うことで、手を小さく上げている子や右左右の確認し忘れている子もあり、再度確認できる良いきっかけとなった。なぜ手を大きく上げるのか、なぜ左右をしっかりと確認するのかの理由も理解できるきっかけとなっていた。簡単な標識についても塗り絵を通して戸外に出ると子どもたちが意識して見つけて「これはとまれだね」など標識の意味も気にして歩くようになり、交通ルールにも興味を持たせることに繋がっていった。交通ルールについて学んだ年長が紙芝居を作成する活動を取り入れたことで、子どもたち同士で渡り方の絵はどう描こうか、その絵を見て何を伝えようかなど子ども同士で話すことや考える良いきっかけづくりに繋がった。また年長児から話すことでより年下の子立ちも興味関心を持ち聞くことができた。

・警察博物館での社会科見学を通して、事前に安全についての意識を高める為に、園内の危険箇所を自分たちで探し、どこが危険であるかを子どもたちと共に考え、知ることができた。防犯新聞を作り園内に掲示したことで保護者にも安全や防犯の大げささについて周知することが出来た。掲示した新聞を通し、保護者との会話のきっかけづくりに繋がりが、自分が担当した部分を「ここが危ないことがわかったんだ」と話しながら子どもたちからも伝えるきっかけへと繋がった。

・防災絵本の読み聞かせ「どうぶつポーズであそぼうサイ」を通し、絵本に出てくる動物の動きを真似ながら災害の時に備える動きを子どもたちと行う中で、なぜその動きが大切なのかも理解できるように話した。絵本での導入を行ったことで、子どもたち自身も理解が早く避難訓練の時に頭を守る姿勢を自ら行う姿も見られたので、絵本での意識づけは年齢が幼くなるほどとても有効だと感じた。

・暑い日が長く続く日が増えて行く中で、年長児と暑い日の過ごし方について健康的な過ごし方や暑さ対策について考えることで、体の仕組みや園内と園外の温度の違いや暑さ対策について話し合いをしたことで、汗をかいたら拭くことや、水分補給がなぜ大切なのかなども理解できた様子が見られていた。調べたことや気づきをまとめて新聞に起こすことで周知にも繋がった。

・引き取り訓練時に紙芝居を見たり、防災リュックを子どもたちとどんな物が入っていてどのように使うのかも確認を行った。
紙芝居を通し、普段の避難訓練にはどんな意味があるのかも伝えたことで、子どもたちからも真剣な表情で話を聞く姿が見られた。防災リュックの中を一つずつ確認したことで、子どもたちが使い方を知らない物もたくさんあり、子どもたちと一緒に確認を行い、簡単にそれが内に使う大切なものであるかを知らせる良いきっかけとなり、使い方も見せることができた。

・不審者訓練では駒込警察に依頼し、職員向けに不審者訓練を実施したことで、どのように不審者との距離をとるかや今ある備品のさすまただけでは不審者に対抗するには難しく備品を見直すきっかけとなった。子どもたちに「いかのおすし」の話をしてもらい、数人が警察官の人に声をかけられてもついていかな練習をさせてもらったが、練習であっても一人で断るのは怖そうにした表情が見られ不審者に対する意識を日々の活動の中で知らせていく機会を増やしていくことが大切だと感じた。

